



つしまさいれいずびょうぶ  
 綴プロジェクト作品 津島祭礼図屏風  
 寄贈先：津島市・愛西市 原本所蔵：大英博物館

帰ってきた日本の文化財  
 Vol.15  
 綴プロジェクト作品（高精細複製品）  
 『津島祭礼図屏風』

今も続く、尾張津島の華麗な川祭。

「尾張津島天王祭」は、愛知県津島神社で今も続く伝統の川祭。約三五〇年前の姿を残す八曲一両の大屏風は、右隻に宵祭、左隻に朝祭を描く。祭の主役は車楽舟である。宵祭では数多の提灯が夜空と川面を幻想的に照らす。当時、卓越した技を持っていた狩野派の絵師たちは、壮麗な舟祭を楽しむ人々の間に金雲を配し、湊町として栄えた当時の津島の繁栄を再現した。

原本はイギリス大英博物館所蔵、綴プロジェクトによって高精細複製品が津島市・愛西市に里帰りしました。ユネスコ無形文化遺産である祭の江戸初期の姿と、当時の風俗を伝える貴重な作品です。現在、川を埋め立てた池が祭の舞台ですが、屏風に描かれた津島神社の鳥居や車楽舟、抹茶の屋台などに集う人々に、今につながる郷土の姿が観られます。時代を経ても郷土の祭を愛する心は変わらない。金色の大屏風には、伝統を伝えようと願う当時の人々の思いが綴られています。

日本の美を、人へ、未来へ、伝えていく。

「綴プロジェクト」は、貴重な日本の文化財を高精細複製品として制作し、オリジナルの文化財の保存と複製品の公開を目的とする社会貢献活動です。海外に渡った文化財を高精細複製品として、日本に「里帰り」させているほか、綴プロジェクトで制作した作品(37作品)は、寄贈先の美術館や寺院などでの一般公開や、歴史教育の現場で生きた教材として、日本の優れた文化や芸術により身近に接する機会を提供しています。



詳細は、公式サイト  
 でご覧いただけます。  
[global.canon/ja/tsuzuri](http://global.canon/ja/tsuzuri)

公開情報

綴プロジェクト作品・津島祭礼図屏風は津島市・愛西市にて公開されています。

